

[020]教育経営学研究紀要目次等

<https://hdl.handle.net/2324/1929766>

出版情報：教育経営学研究紀要. 20, 2018-03-29. 九州大学大学院人間環境学府(教育学部門)教育経営学
研究室/教育法制論研究室

バージョン：

権利関係：

あとがき

研究室紀要第 20 号（通巻 28 号）が完成しましたので、ここに謹んでお届け致します。ここ数年、キャンパス移転の話を探ねられることが大変多かったのですが、いよいよこの秋で百年の歴史を刻んだ箱崎の地を離れることとなります。学生時代から移転の話はありましたが、ずっと遠い先のことと思っていました。その学生時代よりお世話になっていた吉岡直子さん（西南学院大学教授）が急逝されました。今でも信じられませんが、ご冥福をお祈りするとともに、神田修教授・小川正人助教授の体制下、唐寅さん（福岡アジア都市研究所主任研究員）、日永龍彦さん（山梨大学教授）、本多正人さん（国立教育政策研究所総括研究官）と五人でコーヒーを片手に研究室で語らった日々が懐かしく偲ばれます。こうした四半世紀の思い出をもって新しい研究室に移りたいと思います。

さて、平成 29 年度の研究室の概況ですが、まず長きにわたって研究室に貢献してくれた金子研太さんが 4 月より九州共立大学に就職されました。後任の教育学部門の助教には榎景子さんが神戸大学より着任され、教育行政学プロパーということで、研究室にも多くの刺激を与えてくれています。また、文科省受託研究の学術研究員として本研究室の学校コンサルテーション事業を中心に推進してくれている木下寛子さん（環境心理学・博士）も学部学生や院生に大いなる影響を与えてくれました。学術協力研究員としてこの何年も研究室にかかわってくださっている藤原直子さん（学校建築学・博士）も同様です。

教員一人体制となっている現在、こうした異質情報こそが貴重な財産です。その意味で「めしつぶの会」（博士論文検討会）等に参加してくれている佐賀大学の佐藤晋平さんや大分大学の清水良彦さん、そして「箱崎きたもん權」（教育経営・法制研究室 0B・0G）のメンバーにも大いに助けられています。今年度 2 つの受託研究や学校管理職マネジメント研修などでもお世話になりました。また、本号に対する審査も「きたもん權」メンバーにお願いしました。年代的に公私にわたってお忙しい中、暖かみのある厳しい査読コメントを下された外部査読者の先生方に心より感謝申し上げます。併せてその鋭いご指摘を十分生かし切れていないことをお詫び申し上げます。なお、本紀要 20 号は編集委員の原北祥悟、小林昇光、鄭修娟、横山葵、四氏の献身的な作業のお蔭で予算の厳しい中、なんとか刊行することができましたことも付記しておきます。

本研究室は、中国・高レベルで留学してきた殷爽さんが無事に秋の院試に合格し、これで博士後期課程の院生が 8 名となりました。これまで学位取得者も大学研究者も何とか輩出していますが、足の裏の「めしつぶ」をとって「すっきり」できるよう「喰って」いけるよう、地道に力をつけていける刺激ある研究環境づくりに努めたい所存です。

このたび「20 号」という節目を迎えた本研究室紀要をご笑覧いただき、ご指導ご鞭撻をよろしく申し上げます。

平成 30 年最後の桜を迎える箱崎キャンパスで
教育法制研究室 教授 元兼 正浩